

子ども読書推進のための様々な取組

実践 鹿兒島市清谿幼稚園「ぐりとぐらの会」

1 はじめに

終戦後の昭和 20 年代、谷山地区では、昭和 23 年設立の谷山町立谷山高校の県立移管と校舎建築が重要課題だった。昭和 29 年、PTA 会長で「谷山高校県立移管期成委員会」委員長の宮原長吉氏はこの難問を先頭に立って解決し、翌昭和 30 年には、幼児教育施設も必要であるとの認識から、私財を投じて清谿幼稚園を設立した。以来、61 年目を迎えている。

建学の精神は、「博愛・人道・創造」。日々の教育・保育活動は、常にこの精神を追求する活動として推進しており、平成 3 年には赤十字精神を学び、実践するために青少年赤十字にも加盟、その成果として、挨拶・笑顔・元気・優しさあふれる毎日が展開されている。

読書活動については、本園の P T A サークル「ぐりとぐらの会」会員と連携して進めている。以下、具体的な内容を紹介するが、蔵書の拡充、蔵書リストの整備、魅力ある図書室設営、見やすい配架の工夫等、子どもたちの心のオアシスとしての図書室づくりにも腐心し、子どもたちが夢中になって書架に手を伸ばす姿に繋いでいけるよう努めている。

2 幼稚園が実施している読書活動

- (1) 担任による毎日の読み聞かせ
- (2) 誕生会での当番職員による読み聞かせ
- (3) クラス別の図書室の図書貸出
- (4) 家庭での親子読書活動の推奨
- (5) 諸行事関連の絵本の読み聞かせ
- (6) お勧め本の紹介
- (7) 園指定図書の購入推奨，希望図書購入の斡旋

3 読み聞かせサークル「ぐりとぐらの会」

(1) 「ぐりとぐらの会」

園の P T A サークルの一つとして平成元年に発足した読み聞かせグループである。「子どもたちと共に絵本の素晴らしさを知り、一緒に楽しみながら活動しよう。」というモットーを長年引き継ぎながら、子どもたちに絵本を大好きになってもらいたいという志を持った母親たちが集まって活動している。現在の会員は 7 人である。

(2) 「ぐりとぐらの会」の活動

読み聞かせ会

主たる活動である読み聞かせ会は、毎週火曜日の朝、年少少組(2 歳児)から、年長組までの園児が自由参加という形で、園の図書室で 20 分程度行っている。会員の中から、その日の担当 1 ~ 2 人で読み聞かせを行うが、よりたくさん子どもたちに参加してもらい、毎回楽しみな時間となるように以下のような細かな工夫を行っている。

- ・ はじまりのうた、おわりのうたを決め、毎回同じ歌を手遊びを交えてみんなで歌う。
- ・ 選書は担当が行うが、読み聞かせを行った絵本は、記録を残し、ジャンル等に偏りがないように注意を払っている。
- ・ 季節やイベントに沿った絵本を積極的に取り入れたり、むかしばなしや科学絵本などの、比較的子どもたちが手に取りにくい絵本も読み聞かせの対象として、みんなで楽しむようにしたりするなど、より幅広いジャンルに触れてもらう機会となる

ように心掛けている。

- ・ 絵本のサイズによって、子どもたちのそばで読んだり、絵本台に乗せて読んだり、子どもたちの視線を意識する。
- ・ 子どもたちに、興味を持って絵本を手にとってもらえるように、図書室のホワイトボードに今日読む本の題・作者を書き留めておく。
- ・ 次回の参加が楽しみになるように、園児のリクエストした絵本も取り入れる。



毎回の反省を通して、さらによりよい読み聞かせ会を目指したいという意識により、いつもたくさんの園児が参加する読み聞かせ会となっている。

幼稚園行事における発表

七夕会・クリスマス会・お別れ会などの園の行事において出し物を行う。演目は季節や行事に沿ったものに加えて、普段読み聞かせ会を行う中で園児に人気があった絵本や園児により広めたい絵本を選定している。



演じ方はペープサート、人形劇、パネルシアター、ブラックシアター等多種多様である。

園外発表

「谷山地域読み聞かせ発表会」「絵本に親しむ発表会」等の園外での活動にも参加。活動発表の機会となっていることに加え、他の読み聞かせグループとの交流を図ることで、よりよい活動の勉強の場にもなっている。

絵本だよりの発行

年に3回程度、全園児に配布する絵本だよりに「えほんのおへや」には、新刊の案内や、読み聞かせ活動・園外活動の記録や紹介、また保護者も利用可能な園の図書室についての案内を掲載し、全保護者への啓発を行っている。



これからの取り組み

図書室にワンコーナーを設け、会員の選んだ絵本の紹介を行う取り組みを始めた。絵本により手を伸ばしやすくなるように、もっと興味関心を持ってもらえるような工夫を凝らして、続けていきたい。



4 おわりに

今年で27年という長い間、子どもたちに絵本を好きになってもらえるようにという思いを引き継ぎながら活動を続けてきたが、年々会員数が減少している。会員数を増やすことは、もちろん重要な課題ではあるが、少人数だからこそそのチームワークの強さがあり、楽しみの共有もできている。これからも、子どもたちと一緒に絵本を楽しみながら、もっと絵本を読みたいなという気持ちを持ってもらえるような活動を続けていきたい。

また、同じ保護者という立場からの、保護者の読み聞かせに対する意識向上にも工夫を続け、親子読書の楽しみをもっと多くの保護者、子どもたちに浸透させていけるよう取り組んでいきたい。